



2017年度 JSID's Fellowship SHISEIDO Research Grant(資生堂賞) 受賞者ご紹介

2017年度JSID's Fellowship SHISEIDO Research Grant受賞者2名の先生をご紹介します(五十音順)。

本Grant授与式は、日本研究皮膚科学会 第42回年次学術大会・総会(高知)にて開催します(2017年12月15日(金)16:30~、高知市文化プラザかるぼーと Room A)。

本研究のご成果については、次年度以降の日本研究皮膚科学会年次学術大会にてポスター発表していただく予定です。

ご 芳 名：高橋 勇人 先生 / Hayato Takahashi, M.D., Ph. D.

ご 所 属：慶應義塾大学医学部皮膚科学教室
Department of Dermatology, Keio University
School of Medicine

研究テーマ：ヘルパーT細胞におけるコレステロール25-水酸化酵素の発現機構
と生体内機能の解析
Analysis on expression mechanism and *in vivo* function
of cholesterol 25-hydroxylase in helper T cells



ご 略 歴：2000年 3月 慶應義塾大学医学部 卒業
2000年 4月 慶應義塾大学医学部皮膚科学教室 入局
2002年 4月 慶應義塾大学大学院医学研究科内科系皮膚科学 入学
2006年 4月 慶應義塾大学医学部皮膚科学教室 助教
2009年 7月 米国国立衛生研究所 (Molecular Immunology and Inflammation
Branch, National Institute of Arthritis and Musculoskeletal and
Skin Diseases, PI: Dr. John O' Shea) Visiting fellow
2011年 1月 日本学術振興会 海外特別研究員(NIH)
2012年 7月 慶應義塾大学医学部皮膚科学教室 助教
2015年 10月 慶應義塾大学医学部皮膚科学教室 専任講師

受賞のご感想：

この度は、栄誉あるJSID's Fellowship SHISEIDO Research Grant(資生堂賞)を受賞させていただき、大変光栄に存じます。今まで、皮膚疾患におけるT細胞の役割に興味をもち研究をしてまいりました。本研究においても、T細胞の新しい機能としてのコレステロール代謝産物に注目して解析を進めております。新しい治療につながるような成果を目指して頑張りたいと思っております。最後に資生堂ならびに選考委員の先生、また今までご指導を頂きました先生方に厚く御礼申し上げます。



2017年度 JSID's Fellowship SHISEIDO Research Grant (資生堂賞) 受賞者ご紹介

ご 芳 名 : 渡辺 玲 先生 / Rei Watanabe, M.D., Ph.D.

ご 所 属 : 筑波大学医学医療系皮膚科

Department of Dermatology, Faculty of Medicine,
University of Tsukuba

研究テーマ : ヒト皮膚T細胞の加齢に伴う変化

Aging alteration of human skin T cells



ご 略 歴 : 2001年 3月 東京大学医学部医学科 卒業

2001年 5月 東京大学医学部附属病院・東京厚生年金病院 皮膚科研修医

2003年 4月 東京大学大学院医学系研究科外科学専攻 入学

2007年 3月 同 修了

2007年 4月 東京大学医学部附属病院皮膚科助教・国立国際医療センター皮膚科
医系技官

2009年 9月 Post doctoral fellow, Department of Dermatology, Brigham and
Women's Hospital

2014年 4月 東京大学医学部附属病院皮膚科 助教

2014年 7月 同 講師

2015年 10月 筑波大学医学医療系皮膚科 講師

受賞のご感想 :

この度はJSID's Fellowship SHISEIDO Research Grant(資生堂賞)を受賞させていただき、大変光栄に存じます。資生堂及び選考委員の先生方、ご指導下さいます先生方に深謝申し上げます。私は現在、皮膚resident memory T細胞に関して研究を行っています。循環中とは異なるこの皮膚独自のT細胞叢が様々な皮膚疾患に関与する可能性が考えられています。皮膚の加齢変化を皮膚resident memory T細胞の観点から捉え、これから迎える超高齢化社会の疾患managementに少しでも貢献できるよう、今後も努力してまいります。